SHASHI
The Journal of Japanese Business and Company History
Vol. 6, No. 1 (2021) ■ ISSN 2169-0820 (Online) ■ DOI 10.5195/shashi.2021.53 ■ http://shashi.pitt.edu

『渋沢栄一伝記資料』について

The Shibusawa Eiichi Denki Shiryo

茂原 暢　Shigehara Toru

公益財団法人渋沢栄一記念財団 情報資源センター
Information Resources Center, Shibusawa Eiichi Memorial Foundation

2021 年というのは、渋沢栄一（Shibusawa Eiichi, 1840-1931）にとって特別な年だ。没後 90 年となるだけではなく、NHK 大河ドラマ「青天を衝け（Reach Beyond the Blue Sky）」の主人公として、およそ 1 年にわたってその人生が描かれるからである。このドラマは、2021 年 2 月 14 日の第 1 回放送時に Twitter のトレンド世界 1 位ともなり、渋沢栄一の知名度は爆発的に上昇している。初回の評判は上々で、テレビの視聴率は 20%と良い数字になった。そのほかにも 2024 年に発行される予定の新しい 1 万円札の肖像画に選ばれており、渋沢栄一は今後も注目され続けるであろう。

渋沢は天保 11 年 2 月 13 日、すなわち西暦 1840 年 3 月 16 日に今の埼玉県深谷市で生まれた実業家・社会事業家であり、「近代日本資本主義の父」と呼ばれることもある人物である。彼が紹介される際、「約 500 の企業の育成に関わっただけではなく、約 600 の社会公共事業や民間外交にも尽力したこと」に言及されることは多い。しかし彼の記録を集積し、1955 年から 1971 年にかけて刊行された『渋沢栄一伝記資料』に話がおよぶことは滅多にない。

『渋沢栄一伝記資料（Shibusawa Eiichi Biographical Materials）』（以下『伝記資料』とする）とは、渋沢の伝記が数多く書かれても、それらが必ずしも正確さや詳細さにおいて十分ではないとの認識から、伝記を書くための資料を蒐集、編纂した「資料集」である。全 68 巻（本編 58 巻、別巻 10 巻）、総ページ数 48,000 ページという分量は破格であるが、それは長命であった渋沢の広域にわたる活動記録が、十分に収集・整理・分類された上で集積されている上での必然と言えるだろう。また、それ故に渋沢の事績だけではなく、幕末から昭和に至る経済、政治、外交、社会、教育、宗教、文化、学芸など種々の情勢を知ることができるものとなっている。本編第 57 巻の「刊行事歴」には「稀に見るほどの大部な巻数で、所謂リーダブルな書物ではないから、実際に役立てるため、できるかぎり広く全国の各大学・研究所並びに図書館は

Shashi: The Journal of Japanese Business and Company History
渋沢栄一伝記資料 | http://shashi.pitt.edu
Vol. 6, No. 1(2021) | DOI 10.5195/shashi.2021.53

勿論、遠く外国の大学にも蔵本されるよう切望した」とあり、実際 WorldCat や CiNii Books で検索すると海外の大学図書館に所蔵されていることも確認できる。また、「国立国会図書館デジタルコレクション」の「図書館送信資料」として全巻閲覧可能である。『伝記資料』に関する英文による情報は渋沢栄一記念財団の以下のページから得ることができる。

Shibusawa Eiichi Denki Shiryo (Shibusawa Eiichi Memorial Foundation)
https://www.shibusawa.or.jp/english/eiichi/denki_shiryo.html

興味深いのは本編、別巻それぞれの構造である。本編は渋沢の誕生（1840 年）から没後の顕彰事業（1940 年）までを、1）誕生から大蔵省退官まで、2）実業界引退まで、3）実業界引退後という 3 つの時代区分に分け、関わった事業の多さから「2)」と「3)」では事業別に事項を分類している。資料は「綱文（こうぶん）」と呼ばれる出来事の要約文の下に、その典拠となるものが時系列で列挙、引用されるという形をとる。この形は『大日本史料』や『大日本維新史料』を参考にしたと言われているが、本編の中にはこのセットが約 7,500 あり、引用されている資料はのべ35､000ほどを数える。本編の最後（第58巻）は索引巻となっており、「事業別年譜」「総目次」「五十音順款項目索引」という 3 つのツールによって、膨大な情報へのアクセスを支援している。ちなみに、「事業別年譜」には 75 の事業のもとに計 1,353 の会社名・団体名・事項名が記載されている。

一方、別巻は渋沢の日記、予定表（「集会日時通知表」）、書簡、談話・講演の記録（雑誌記事等）、写真などが、資料種別ごとに整理され収載されている。それ故に、たとえば本編の各所に断片的に引用されている日記を通して読みたい場合には、別巻を見ればよいということになる。その他にも、渋沢栄一記念財団の前身となる竜門社の機関誌で渋沢の記録を数多く収載する『竜門雑誌』の総目次（「竜門雑誌総目次 ： 明治一九年七月－昭和二三年一二月」）や「講演総目録」、渋沢が書簡のやりとりをした相手の略歴をまとめた「宛名人名録」「発信人名録」などの参照情報も掲載されている。このように『伝記資料』を全体で見ると、まるで「紙で出来ている渋沢栄一データベース」とでもいうかのような内容になっているのだ。

渋沢栄一記念財団情報資源センターでは、この『伝記資料』をデジタル化して公開する事業を 2004 年から続けており、現在本編の第 1 巻から第 57 巻までをインターネットを通じて無料で公開している。

デジタル版『渋沢栄一伝記資料』（公益財団法人渋沢栄一記念財団）
https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/

Shashi: The Journal of Japanese Business and Company History
渋沢栄一伝記資料 | http://shashi.pitt.edu
Vol. 6, No. 1(2021) | DOI 10.5195/shashi.2021.53

このデジタル版の特徴は、ページ画像を公開するだけではなく本文をテキスト化しているところにあり、その強みは“オンラインでフルテキストサーチができる”ところにある。Google 検索からでもアクセス可能だが、デジタル版で用意されている詳細検索ページでは、時代や巻を選んでの検索にも対応している。このほかにも、書籍版にはない「著作者別資料リスト」や綱文ごとの「資料リスト」ページなどを新たに作成するなど、本文への多様なアプローチを可能にしている。詳しい使い方は英語の“User Guide”にまとめてあるので、ご活用いただければ幸いである。

Shibusawa Eiichi Denki Shiryo Digital version- User Guide (PDF, 746KB)
https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/pdf/UserGuide.pdf

さらに今、別巻の公開へ向け、渋沢の日記と予定表（「集会日時通知表」）の掲載巻（第 1 と第 2）を対象に、そのテキストを TEI（Text Encoding Initiative）のガイドラインに沿って構造化するための共同研究を行っている。本研究はデジタルヒューマニティーズの第一人者たちが参加しており、TEI を用いて構造化する上での課題を解決するだけではなく、1） 近現代日本語資料の TEI マークアップ手法、2） 内容の可視化と分析による多角的な研究アプローチ、3）アーカイブズ資料への応用可能性、を提案・考察することで、最終的に日本語資料のテキスト構造化および公開に貢献することを目指している。

Shashi: The Journal of Japanese Business and Company History
渋沢栄一伝記資料 | http://shashi.pitt.edu
Vol. 6, No. 1(2021) | DOI 10.5195/shashi.2021.53

研究内容は、2021 年 3 月 7 日にオンラインで開催された「国立歴史民俗博物館共同研究「総合資料学の創成」2020（令和 2）年度全体集会」で発表され、その成果は GitHub Pages での公開が予定されている。ここでは本文をテキストで読めるだけではなく、IIIF Viewer によるページ画像の表示、TEI でのマークアップによる日付・時間・人名・地名情報の抽出に加え、RDF を使った外部データベースとの接続、カレンダーやネットワーク図による抽出情報の可視化などを試みている。このように『伝記資料』はデジタル化されたことによって、今や新たな可能性を獲得しつつある。

2021 年は渋沢にとって特別な年だ。大河ドラマでは『伝記資料』中のトピックが脚本家の手によって甦り、デジタルの世界では彼の記録に新たな命が吹き込まれている。ここに広がっているのは、今までに見たことのない渋沢の世界だ。ついに我々の時代に渋沢栄一がやって来たのである。

New articles in this journal are licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 United States License.

This journal is published by the University Library System, University of Pittsburgh as part of its D-Scribe Digital Publishing Program and is cosponsored by the University of Pittsburgh Press.